



トークライブ「ラグビーとボランティアとリーダーシップ」

5月9日（木）、本学南大沢キャンパスの講堂小ホールにて、「トークライブ『ラグビーとボランティアとリーダーシップ』」を開催しました。本学は、「ラグビーワールドカップ2019日本大会（以下、RWC）」の機運醸成と東日本大震災で甚大な被害を受けたラグビーの街“釜石”の復興をラグビーを通じて応援するため、「釜石ラグビー2019応援プロジェクト」を発足し、RWCの際には岩手県釜石市でボランティア活動を行います。

今回、プロジェクトの一環で、多くの人が様々な形でRWCを楽しみ、応援できるよう、ラグビーの魅力について学ぶ場として、本トークライブを開催しました。

本学では教養科目「ボランティアとリーダーシップ」を開講し、ボランティア活動におけるリーダーやリーダーシップについて学ぶ科目があるなど、ボランティア活動において「リーダーシップ」は重要なキーワードであると捉えています。一方で、ラグビーは、スポーツの中でもとりわけキャプテンを中心に選手自身のリーダーシップが尊重されています。

今回、ラグビーのチームとボランティア組織におけるリーダーシップをつなげて考えることを通して、今後の活動や組織づくりへのヒントを得ることができました。

・はじめに

トークライブの開始前に、「釜石ラグビー2019応援プロジェクト」に所属している学生より、これまでの活動報告と今後の活動目標が紹介されました。ワークショップを通じて、RWCを釜石で開催することや東京

の学生が釜石でボランティア活動を行うことの意義について考えてきたことや、昨年度に行われた「8.19釜石鶴住居復興スタジアムオープニングDAY」でのボランティア活動等についての紹介がありました。

今後に向けては、①ラグビーワールドカップの認知度アップ、②誰もが良い思い出にできるようにワールドカップの成功をボランティアとして支える、③自分たちも釜石について発信をする媒体となり、東京で釜石について伝える、の3つの目標が掲げられていました。



学生たちによる活動報告

・トークライブ

◆出演者

ファシリテーター：村上晃一氏
（ラグビージャーナリスト）

スピーカー：

《ラグビーとリーダーシップの観点から》
・富岡 鉄平 氏（元ラグビー日本代表、東芝ブレイブルーパス前監督）
《ボランティアとリーダーシップの観点から》
・室田 信一（人文社会学部 社会福祉分野 准教授）

《ラグビーとボランティアに取り組む学生の立場から》

・辰巳 紘奨 氏（都市環境学部 分子応用化学コース 4年）

ファシリテーターは、ラグビー初心者にも分かりやすい解説をしてくださるラグビージャーナリストの村上晃一さん。そして、登壇者は、ラグビーとリーダーシップの観点から、東芝ブレイブルーパスで5年間キャプテンを務め、前監督でもある富岡鉄平さん、教養科目「ボランティアとリーダーシップ」を担当する室田信一先生、RWC釜石会場でのボランティアを行うラグビー部キャプテンの辰巳紘奨さんの3名です。

村上さんは、終始場を和ませながら、鋭い質問で、それぞれの登壇者のお話を上手く引き出してくださいました。



ファシリテーターの村上さん

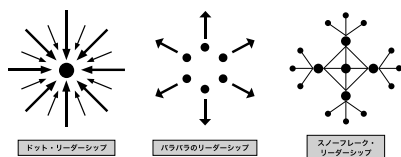
室田先生からは、人口が減少し、経済も右肩上がりではない現在の社会においては、「俺に付いてこい」という1人の強いリーダーではなく、一人ひとりがリーダーシップを発揮して社会をつくっていくことが必要なのではないかというお話がありました。リーダー

シップの形態として、強烈なリーダーにみんながついて行く「ドット・リーダーシップ」、「バラバラのリーダーシップ」、そして、雪の結晶のように広がり、支え合いながら役割分担をしながら連なってまとまっていく「スノーフレーク・リーダーシップ」について説明があり、ボランティア活動の理想的なリーダーシップはスノーフレーク型(共通の目的のもとに、相互補完しながらリーダーシップをチームで発揮することのできる組織を構築する形態)であるというお話がありました。



リーダーシップの形態について解説する室田先生

リーダーシップの形態



出典: Ganz, M.『リーダーシップ・オーガナイズン・アクション』

それについて、富岡さんからは、東芝の5年間のキャプテン生活のなかで、最初は俺の想いについて来い、という姿勢でぐいぐい引っ張ったが、次第に選手それぞれにアプローチを変えるようになっていったというエピソードをお話いただきました。「人の心に着火していくことが大事だと思います」。「(監督の最後の年は)自分の想いだけで走り、みんな腑に落ちないままやっていった。それが失敗でした。そして責任をとって辞めることになりました」と失敗談も語ってくださいました。「強いリーダーシップとは決して一人で突っ走ることではなく、大きなお椀のように皆を受けとめ、皆が同じ目標に向かっているか、腹落ちできているか、を広い視野で見て達成に導くことが大切です」とおっしゃっていました。

次に、「ラグビーが好きで、ラグビーの魅力を伝えたい。RWCを成功させたい。復興支援につながる活動がしたい」という理由でボランティアに参加した辰巳さんに対して、なぜ、そう思うのか、スポーツ大会にはなぜボランティアが必要なのか、それぞれが考えつつディスカッションが進みました。富岡さん

からは、「ファンになってもらいたいという気持ちが大切だ」というお話もありました。RWCを成功させるためには、ラグビーのファンになってもらいたい、世界の人に日本のファンになってもらいたいなど、そういう思いがあふれた時に、とても良い空間になり、人はハッピーになる。それがボランティアの魅力や価値だと思いうという話がありました。

また、ボランティアとラグビーを結びつけ、「他者貢献だけではだめで、自己実現がないといけない。自己実現がないのに他者貢献なんか絶対できないよ」という意見があり、「自己満足と自己実現は違います」ともおっしゃっていました。釜石へ行く目的を、一人ひとりがもっと明確にしないといけないという示唆を与えていただきました。



ご自身の経験を交えてリーダーシップについて語ってくださった富岡さん
いつも印象的なキーワードが飛び出しました

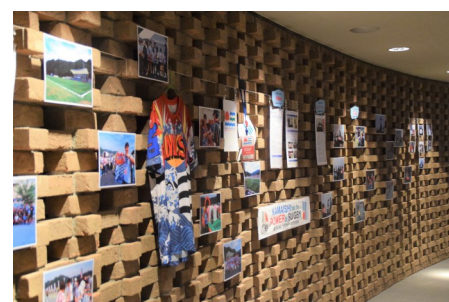
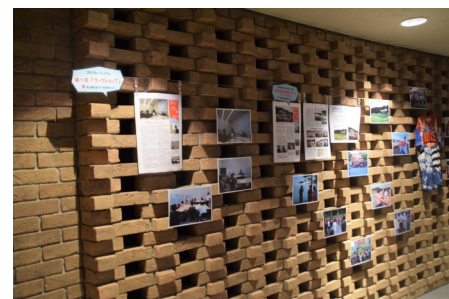


緊張しながら自身の想いを語る辰巳さん

会場にいたラグビー部員から「私たちの部は指導者が常駐していない。そういう場合、監督の立場として学生のリーダーにどんなことを求めますか?」という質問が出ると、富岡さんは「君はどうしたいの? なのために練習しているの?」と、どんどん質問で答えを迫りました。自分では答えを言わず、答えにたどり着くように導く。これもリーダーシップだと感じました。「僕はそこまで深く考えていませんでした」という辰巳さんには「そうやってカッコつけずに、素直に話せるのが素晴らしい。良いリーダーだと思うよ」とも。辰巳さんからは、「ラグビー部の練習や試合でもボランティア活動で得た経験を生かしていきたい」という思いが語られました。

村上さんからは、「ボランティアの組織運営でのリーダーシップはまさにラグビーでのチームマネジメントと重なります。メンバーに共通した目標と目標達成への明確な戦略をもたせ、モチベーションを高められれば不意に起きる問題にも柔軟に対応できるはずです」といったまとめがありました。

自分はなんのためにラグビーをしているのか、なぜボランティアをするのか等について考えることができ、気づきの多いトークライブになりました。出演者のお話を通して、このようなリーダーシップはラグビーやボランティア活動に限らず、社会での様々なことにも共通して当てはまるものだと感じました。今回、出演者の皆さんから学んだことを活かして、今後の活動に向けて、改めて、メンバー全員で、なぜこの活動をするのか、自分はどれくらいしたいのか、等を明確にし、「いいチーム」をつくっていきたいと思います。



会場の後方では、これまで行ってきた活動に関する展示を行いました